



Title	はじめに
Author(s)	瀬川, 信久; SEGAWA, Nobuhisa
Citation	北大法学論集, 47(6), 114-114
Issue Date	1997-04-10
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/15704
Type	departmental bulletin paper
File Information	47(6)_p114-114.pdf



マの下で、わが国の民法学が直面している問題状況を明らかにし、二一世紀に向けての展望を探りたいと考えている。実際の研究活動は、約一年半の計画で本年（一九九六年）五月末に開始した。この共同研究の一環として、本年九月二一日（土）に、平井宜雄教授（東京大学）をお迎えして研究会を開催した。ここに掲載するのはその記録である。

平井宜雄教授は、最初の御研究である『損害賠償法の理論』（一九七一年）から、『現代不法行為理論の一展望』（一九八〇年）、『法政策学』（初版一九八七年、第二版一九九五年）を経て、『法律学基礎論覚書』（一九八九年）、『法律学基礎論覚書』（一九九一年）に至るまで、常に、そのときどきの民法学の問題性を抉りだし、それを克服する方向を提示してこられた。本研究会を企画したのは、その御研究の軌跡を正確に理解することが、右の共同研究にとって不可欠だと考えたからである。

当日の研究会においては、平井宜雄教授から『法的思想様式』を求めて——三五年の回顧と展望』と題する御報告をいただき、ついで吉田邦彦教授が、『現代思想から見た民法解釈方法論——平井教授の研究を中心として』と題する副報告を行い、その後には討論を行った。

ここに収録するものうち、平井教授の御報告と吉田教授の報告は、あらためて執筆していただいたものである。討論の部分は、まずテープから起こし、ついで各発言者に目を通していただき、最後に瀬川信久と吉田邦彦が若干の整理をした。研究会の内容を収録するにあたり、本論集の「シンポジウム」のカテゴリーに入れ、『民法学の方法・思想・思考様式』という表題を付した。

われわれの勝手なお願いにもかかわらず、お忙しい中で報告と執筆の労をお引き受けくださった平井宜雄教授に、この場を借りて、心よりお礼申し上げる次第である。